

52. 最近経験した胆道回虫迷入症の3例

佐藤 宏, 中村 朗, 糸林 詠
 紫村治久, 真島浩聡, 吉田繁夫
 浅田 学, 吉田象二 (旭中央)

胆道回虫迷入症の3例に若干の文献的考察を加えて報告した。いずれの症例も腹部超音波検査 (US), 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) にて診断し, 内視鏡的に虫体の除去を行なった。今日でも急性腹症の鑑別疾患として念頭に置くべき疾患のひとつと思われた。

53. 冠動脈造影施行例における冠危険因子の検討

関矢信康, 葛西正明, 服部陽子
 龍野一郎, 斎藤康栄, 佐藤重明
 (鹿島労災)
 田代 淳 (千大)

冠動脈造影を施行した195例における冠動脈狭窄度と危険因子との関係を検討した。喫煙, 耐糖能異常, 高TC血症 (180mg/dl以上) を有する症例で狭窄スコアは上昇した。高中性脂肪血症者は高TC血症または低HDL-C血症と合併すると狭窄スコアの増加を認めた。喫煙, 肥満, 耐糖能異常, 高TC血症, 低HDL-C血症のうち3個以上を有した場合狭窄スコアの増加を認めた。これらの因子が冠動脈狭窄発症に関与することが推測された。

54. 高血圧, 高脂血, 高血糖合併症候群における動脈硬化発生の問題点

—疫学と動物モデルによる要因の解析—

白井厚治
 (東邦大・臨床生理機能学研究室)

都市部住民検診22万余例において, 高血圧, 高脂血, 高血糖 (HHG 三徴候) 合併例は0.5%であり, 大動脈脈波速度 (PWV) は各年代とも平均10歳相当増悪していた。そこで本病態の成因と動脈硬化発生機序を明らかにするためモデル動物の開発を試みた。24カ月家兎に α 化デンプンとノルアドレナリン負荷を5カ月間行くと, HHG 三徴候合併, PWV 増悪, 更に胸部大動脈, 頸部, 腎, 冠状, 脳各動脈に広範な組織障害を発生することを確認した。

55. 血清中にリポ蛋白リパーゼ活性阻害作用を認めたV型高脂血症

佐々木憲裕 (川鉄)
 小林 淳二 (千大)

妊娠25週で急性膵炎を発症した32歳の女性に中性脂肪7,533mg/dl, 総コレステロール828mg/dlのV型高脂血症を認めた。患者の血清中にリポ蛋白リパーゼ (LpL) はmassとして充分存在しても, 活性は極めて低値であった。患者血清中のHDL分画にLpLの活性を認め, さらに患者LpLは人工基質は分解可能であるが, 内因性の血清中性脂肪の分解は障害されていた。この2つの因子が著明な高中性脂肪血症を生じたと考えられた。

56. 尋常性白斑を合併した自己免疫性溶血性貧血の1例

小林弘一, 中尾篤人, 伊良部徳次
 吉田象二 (旭中央)
 中山文明 (同・皮膚科)

症例: 65歳, 男性。主訴: 全身倦怠感。昭和62年より全身に白斑。平成4年5月, 全身倦怠感, 赤色尿出現。6/29初診。貧血著明, 軽度黄疸, 全身に尋常性白斑を認めた。Hb 4.9g/dl: クームス直接・間接共に強陽性, AIHAと診断。ステロイドおよび免疫抑制剤がAIHAおよび尋常性白斑に著効を示した。尋常性白斑は他の自己免疫疾患との合併は多いが, AIHAとの合併は本例が5例目である。

57. 間質性肺炎, 尋常性乾癬を伴った悪性貧血の1例

三池 聡, 田中 徹, 平澤 晃
 西川哲男 (横浜労災)

症例は63歳, 男性。50歳時より尋常性乾癬, 55歳時より間質性肺炎あり。平成4年4月より息切れ倦怠感が出現。当院受診, 大球性貧血, 血中LDHの増加, 血中Vit. B₁₂値の低下, 抗内因子抗体陽性, また骨髓にてMegaroblastを認め悪性貧血と診断, Vit. B₁₂を投与し貧血の改善がみられた。上記3疾患すべてに免疫機構の異常が考えられ, 興味ある合併例と考えられた。